

明治辛未第十八號

四月五日

太政官日誌

高橋藏

津田文庫
文庫 1
1811

30

25

20

15

10

早稲田大学
圖書館藏書

太政官日誌明治四年第十八号

四月五日

○四月五日 子甲

御布告寫

今般府藩縣一般戶籍ノ法別紙ノ通改正被
仰出候条管内普ク布告致シ可中事

戶籍檢査編製ハ来申年二月一日ヨリ以後ノ
事ニ候得共右ニ關係スル諸般ノ事ハ今ヨリ
處置致ス可ク尤三都府及各開港場ハ人民輻

文庫

太政官日誌明治四年第十八号

010190615087



湊ノ地ニテ取締向速ニ不相立候テハ難相成
ニ付送籍入籍并旅行寄留ノ者ハ鑑札渡方寄
留表取調方等當六月廿九日ヨリ後ルベカラ
サレ事

但不審ノ廉ハ民部省へ可承合事
右之通被 仰出候事

寄留職分戸籍三表有リ略之

大正四年四月十八日

1811

人生始終ヲ詳ニスルハ切要ノ事務ニ候故ニ
自今人民天然ヲ以テ終リ候者又ハ非命ニ死
ニ候者等埋葬ノ處ニ於テ其時々其由ヲ記録
ニ名前書負數トモ毎歲十一月中其管轄廳又
ハ支配所へ差出サセ十二月中辨官へ可差出
候事
右之通管内社寺へ可觸達候事

大正四年四月十八日

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '別紙' at the top left of the page area.)

戶數人員と詳りありて優りあるべき事なるは政務の最
 先ト重き所なり夫れ全國人民の保護ハ大政の本務なり
 而も素より之を待たず然るに其保護まを人民と詳り其何と
 以て其保護まを之を施すを得んやあはれ政府戸籍と詳り
 せざるべし其儀あり又人民の各安康を得て其生と遂る所以
 れりのハ政府保護の庇蔭とすべし其儀あり其籍と詳り
 其數漏るものハ其保護を受けざる理りて自ら國民の外
 たり近し此も人民戸籍と納りざるを得ざるの儀あり中古
 以来各人民治趣と異りて一より僅々東西を隔つるに忽ち

情態と殊り聊ら遠近ありバ即ち志行と同ふを随て戸
籍の法も終に錯雜の弊を免るべ或ハ此籍を逃る或ハ彼籍
と欺き去就ありに任せ往來規ありは治襲の習人々自ら
度外に附するに至る故に今般全國惣体の戸籍法を定らる
と以て普く上下の通義を辨へ宜しく粗畧のそまらるべし

第一則

戸籍舊習の錯雜あり所以ハ族屬を分つて之を編製し
地を就て之を収めざるを以て遺漏の事ありとく之を檢査
其の便を得ざるを以て故に此度編製の法臣民一般
華族士族
卒詞
編製

保戸民道と
形以の能考其住居の地を就て之を収め専ら遷をまらる旨とん故
各地方土地の便宜に随ハテ
置も長并副として其区内の戸数人員生死出入等と詳とる事
と掌らるべし

第二則

戸長ハ必も長と副と限るべし時宜より長副數名ありも妨
ず

但戸長の務ハ是迄各處に於て莊屋名主年寄觸頭と唱ふ
もの等と掌らるべし又ハ別人を用ゆるも妨げず

第三則

凡^レと區畫と定む^ル警^ハ一^ノ府一^ノ郡と分て何^ノ區域^ハ何^ノ十^ノ區^ト其^ノ一^ノ區^ト定む^ルハ四五^ノ丁^トり^ハ七八^ノ村^トと組合^スル^ル然^レも其^ノ小^ノ數^ト及^ビ大^ノ數^トの^ハ一^ニ止^ム都^テ其^ノ時^宜と便利^ト其^ノ妨^ケの^ハ華^族が^族住^居の^地從^前武^家地^屋敷^地と唱^ルも^同様^ナル^ル素^ヨリ^ハ但^急ニ^區畫^ト定^メ難^シ所^ハ仮^ニ便宜^ト從^ヒ一^ノ村一^ノ町^ト檢^査せ^ルも^妨げ^ナ官^ノの^學校^兵隊^屯所^等又^ハ大^ノ社^大寺^ノ別^ノ區^域と^ナせ^ルハ^其官^司の^吏負^其社^寺の^執事^等と^ナり^長の^事と^扱は^まむ^も妨^げナ^リ

第四則

戶長其^ノ區^内の^戶籍^と式^のと^集め^二通^と清^書し^更に^第一^号と^第二^号の^式の^と其^ノ區^内總^計の^戶籍^表と^職分^表と^作て^其集^多所^の籍^ハ戶^長備^へ置^清書^二通^と共^ニ其^ノ支^配所^ニ差^出せ^ル支^配所^之と^其廳^ニ差^出し^其廳^之と^第五^号第^六号^の式^のと^其管^内總^計の^戶籍^表と^職分^表と^作て^戶籍^一通^ハ其^ノ廳^ニ備^へ置^一通^と廳^印と^押し^表と^共に^六ヶ^年目^に改^め太^政官^へ差^出せ^ル但^支配^所之^所直^ニ其^ノ廳^ニ出^せし^以下^准之^也

第五則

編製ハル後六ヶ年目ヲ以テ改むしとて其間の出生死去出入等ハ
必キ其時々戸長ニ届ケ戸長之ト其廳ニ届ケ出テ
其廳之ト受け人員の増減等本書へ加除し毎年十一月中戸籍
表と改メ十二月中太政官へ差出まじし
加除ハ生うりのと入りのと加へ死者ハ
出りのと除く類とす

第六則

管轄廳におけり戸籍專任の吏員を置き其事を擔當せしむる若
遺漏跡畧の事あり於てハ其吏員并戸長
の責たる
至し

第七則

区内の順序と明くするハ番号を用ひし故に毎區官私の差別
臣民一般番号を定め其住所を記す都て何番屋敷と記し編製の
順序ハ其号數を以て定むるを要す
但区内の屋敷に所より又ハ一戸を割て二戸ト一戸と合せり
一戸とを二とあはしむ其由を戸籍に記し番号ハ其儘据置さ六
ヶ年目より改むる

第八則

各地方官屬或ハ平民等事務ありて全戸他の管轄所へ引移るもの

ハ其由と本貫管轄廳へ領出其廳より送取て在留地の廳より
届け出其所の籍を編入せし又故ありて元の管轄所へ引移る時ハ
之を戻せし其ハト見出る時如く其所の籍を編入せし

但當時全戸既引移り官員の如く其官省より名前書と在
留地の廳へ達し夫を證とし其住居の地区あり其籍を収むし

又本貫管轄廳ハ其由と其官省より達し其廳之を聴き其所の
籍を除く尤此より後引移るハ此限あり送籍せし本条

の如くせし第八則若全戸引移るとも情故ありて本貫管
轄廳の籍ありと願ふハ其地寄留の部へ入る情願を任するも

妨げなし

第九則

他の管轄地へ引移る時元の廳より送籍せしハ其當人より元住
所の組合并戸長と其由と届け長副連印し其廳へ届け其廳之

を受け其廳聴き知るの證を押し當人へ渡せし
但管轄内廣遠の場所別、支配所あり其支配所より之を達せし

第十則

他の管轄所より此管轄所へ入籍する時ハ元の管轄所の證を持参し

其入る所の戸長、其由を通し戸長其相違多きを糾し其所の藉、
入るし而して戸長其元廳の證と其入籍事のうを時々其
廳へ届くをし

第十一則

管轄内甲の區よりこの區へ移る如きも第八則より第十則
迄の例を見合ふべし但管轄内なるを以て送籍ハ戸長より之を
致し入籍の上其入る所の戸長より其廳へ届け其廳之を聴き即ち
本書に如除をいし如除ハ甲の籍を除き
乙の籍へ入るの類を云
但其區に於て時々如除をいハハ論るべし

第十二則

全戸引移らざ又一時公私の用を寄留するものハ其本貫管
轄廳の鑑札を持参し寄留地戸長へ通し其寄留する所の廳へ名
前書と添へ鑑札と差出し其廳之を受け即ち其廳の鑑札を引替
還せんし鑑札ハ當人名住所職分と記すし名
住所職分と変る時ハ引替へし而して其名の歸國する節ハ
同様の例を以て元の鑑札を引替歸國せし

但管轄内廣遠の場所別々支配所あり其支配所より引替をい
故に鑑札の豫め文配所へ備へ置くを要す
鑑札引替の節其戸長官の學校兵隊等所の如きハ
其役場大社へ寄ハ純事に差出を名前書ハ

官員ハ當人兵隊ハ隊長證印し自余ハ戶主備主請人等證印
を要し 名前番書式ハ第三号見合まふし

第十三則

修行又ハ奉公の爲め他國へ寄留するものも第十二則の例たるし
全戸引格ア一官員等の内寄留情報のもの第十二則の例たるし
第八則但書
見合まふし

但是迄修行又ハ奉公ア一寄留するもの及び事務あつて寄留する
もの其本貫の廳へ届け鑑札請取第十二則の例と以て引替を
し道路懸隔と當くも本貫の廳へ届け難き事故あるものハ

其寄留地の廳と於て戶主備主請人等の證書と出さず其廳より
直に其本貫の廳へ掛合鑑札受取べし但自今以後ハ此例とすべし

第十四則

凡そ旅行するもの官員ハ其官省等の鑑札を所持し自余ハ臣民一
般其管轄廳の鑑札を所持する
旅行を以て渡世するもの如きハ急速の便を得る爲め豫
め其鑑札を申受置も好し
但其管轄廳の鑑札あり當人名住所と職分を記するも一各住
所及び職分を變ぜし時ハ右鑑札を引替る

第二十四則

寄留者の届書ハ其寄留する支配所より其廳 其時々之を記

録一寄留表を第七号式の如く製し出入人負増減を隔月檢

査し其廳より出し其廳之を受け毎年十二月太政官へ差出

但支配所より其支配所と表の左傍に記す

第二十五則

三都府ハ人民輻湊の地を以て寄留表ハ他の藩縣より隔

月検査の時々即ち太政官へ差出する

第二十六則

民産調の如き一般の御布告は此迄地方官より

戸籍中家産等書載せしめ来りし其儘出せり

第二十七則

戸籍表の用紙を厚紙を用ひ戸籍の用紙を美濃紙の寸法を準と

し公用の郵紙を用ゆる戸長と其廳へ收むる今ハ其土地求め易き

適宜の品を用ゑし故毎區長本書の公用郵紙を其廳より下げ渡

第二十八則

各地の戸籍一列を要する字の細大行の高低ハ其記事を標別

し為かるを以て能く注意し成文は細字を記すを要す

第二十九則

地籍

此迄厄介と号せしもの或ハ縁故有りて養育せしもの等ハ其族屬と續柄と有書ハ其事由と其名前の上子記を以て式の如くする

第三十則

華族等の従僕其邸内ニ住居して一戸を有するものハ式の如く其主人の次子記——社中寺内ありしもの此例ニ準ぐる

第三十一則

凡僧尼ハ其式子依て其本貫得度の年月及び其所を記——院内受職の外ハ皆弟子を以て記する

第三十二則

撒多非人等平民と戸籍を司るもの如き其最寄の區々其戸長名前書と出さ

第三十三則

但生死出入其最寄戸長より取扱寄留旅行の規則等平民同様の例子従ハ名前書を六ヶ年目子出さし戸籍の如くする

都々書式ハ臣民も体裁一ニシテ彼此相通——参用して好け

Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers, possibly a ledger or record book.

Table titled '第一号区内户籍表式' (Form of Household Register in the First District). It includes columns for '戸数若干' (Number of households), '人負若干' (Number of people), and '某藩第何区戸籍表' (Household register of the Xth district of the Yth province).

大政官日誌月台四年...

大清宣統元年...

內社何十
寺何十
家持何千
借家何千
人負若干

內男何万
何千

十五以下
二十以上
六十以上
廢疾
穢多
何何何何何何
人人人人人人
十五以上
四十以上
何何何何何何
人人人人人人

死亾何人

女何万何千

十四以下
四十以上
廢疾
穢多
何何何何何何
人人人人人人
十五以上
八十以上
何何何何何何
人人人人人人

死亾何人

右之通相違無之候

年号干支月

第何區戶長
同副
氏名印

大清宣統元年...

商 何人 雜業 何人

右之通相違無之候

年号干支月

事何區戸長 氏名印

同副 氏名印

農工商ノ屬セシモノヲ雜業トスルハ其祠官ノ入ルニ及
曾信ノ加ふる

第三号寄留入届書式

某 縣 族 官 屬

自干支月何日寄留

何	父	母	妻	我男	我女	家令	從者
之							
誰	誰	誰	誰	誰	誰		

太政官日誌日治四年...

合男女
何何人

某住所

何之誰印

碑

誰誰

某藩府
管轄

其國郡某村丁
何職景

自于支月何有寄留

何之誰

若請戶主
備主

某住所

何之誰印

自于支月何留

某藩兵隊
隊長

夫主

何之誰
何之誰
何之誰

大文宮... 十九

合何入

從者 何 之 誰

役夫 何 之 誰

隊長

何 之 誰 印

第四号戸籍書式

区内戸籍紙數の高下は、此の帳冊より、
戸籍のニ戸籍の三とを

年号干支月改

某藩府
縣 管轄第何區戸籍之

何國 何郡

何村 何町

合何夕村丁

大政官日誌
 明和四年第十八
 〇三十一

戸籍同戸列次ノ順

曰 主
 高祖父 母
 曾祖父 母
 祖父 父 母
 父 母
 妻 子

婦 孫 曾 玄 兄 姉 伯叔父母 甥
 孫 孫 弟 妹 父母 姪

大政官日誌明治四年第十八

從 弟
 從 弟 遠
 又 從 弟
 兄弟姊妹夫妻
 大伯父母夫妻
 伯叔父母夫妻
 從弟以下夫妻

某國某郡某村

所有ノ地ニ住ルノ例
主人ノ部内ニ住ルノ例

一番屋敷居住

全區借地スルノ例

某町某所借地居住當府

區内ニ分テ借地スルノ例

同居
借店
借宅
内借地居住

華族

士族

卒

農

工

商

某職

某役

某渡世

明治四年三月十八日

父ハセシモノ、例
父隱居シテ別居シル例

嫡孫承祖ノ例

兄ノ養子タシモノ、例

人ノ養子タシモノ、例

家ヲ兄ニ承ルモノ、例

分家セシモノ、例

父ノ時、住所ヲ異ニシモノ、例

父某官某名亡
父別居

祖父一亡

實父一亡幾男

養父實兄一亡

祖父一亡

兄一亡

父當村百姓一幾男

父某町一亡

何之誰

年月日被叙某位年月日被任某官

某國某藩士族

長女

母

某名

年何々

當府筆淡

姉

妻

長男

何之誰

次男

何之誰

長男

某名

同人長女

同人長男

次男某官某名妻

某名年何々

父弟

弟

妻

大學南校寄留

神奈川某町某職——内弟子

當府某町某渡世——妻離縁之後復籍

太政府某町某渡世——方寄留

某村退轉之後附籍

當縣大属——傭

同人召使

式神某社
某所某宗某寺

又

同人長男

甥
父——三女

同人弟
叔父

母方伯母夫當國某郡某村
百姓——亡長男

從弟
何——之——誰

母方從弟——長男
從弟遺

同人次女
從弟遺

借地

士族——父隱居
當府某町某渡世——弟

別居スルモノ例

又

婿養子例

長男
何——之——誰

實京都府士族
次男

長男——妻
次女

長女

廢疾

大正官日誌月台四三頁一八
大正官日誌月台四三頁一八
二二二

又

一郊内住家入其從者前

内居住
士族

當府華族——家公

父隱居ニテ家ニテ例

父隱居

父故幕府某職——家来

當府士族——從者

後妻

氏神某社

又

年月日被任某官東京寄留

士族 居住

古 何之誰

又

東京某町

本属ヲ以テ寄住ノ地ニ
編籍スルノ例

某國某藩士族

古 何之誰

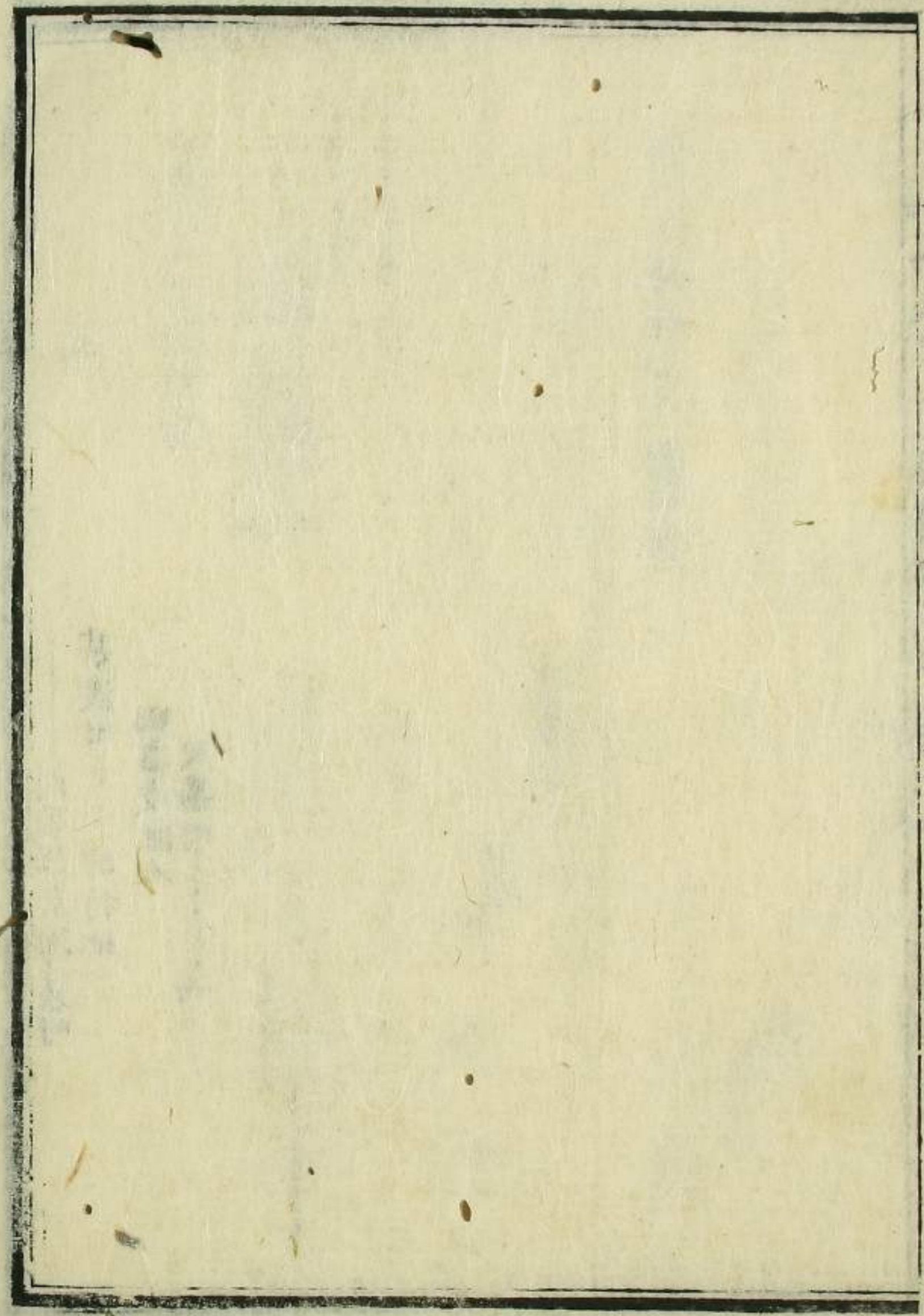
年月日被任某官年月日全戸寄住

又

某渡世

大正官日誌月台四三頁一八
大正官日誌月台四三頁一八
二二二

某國某郡某村某觸下



某國某郡某所

某社
父某職某名

某地所

某國某郡某村某觸下

某社
父

又 又 又

某國某郡某村某觸下

社中人

某職

古

又

某國某郡某所

某宗寺号

第幾世

某名

某國某郡某村百姓 幾男年月日於某所某寺得度

又

某國某郡某村

幾番地町

某宗某寺未

寺号

第幾世

後僧

弟子

寺中

寺号

本之...

...

...

...

官版 不許翻刻

御用御書物所

東洞院三條上町

村上勘兵衛

堀州二條下町

井上治兵衛

扶上

...

...

...

...

...